

# 別府市人権問題啓発推進協議会長賞

## 友だちをふやしたい

別府市立南小学校二年 森田 貫太

ぼくは、道とくのじ間に「やさい村の子どもたち」を学しゅうしました。このお話は、土の中からきたにんじんさんたちが、土の上のなすさんたちになか間はすれにされてしまうお話です。でも、なすさんの友だちのきゆうりさんが、

「土の上とか中とかのちがいより、もっとだいじなことがある気がする。」

と言っていました。だから、ぼくは、ちがいよりもだいじなものってなんなのか、考えました。

ぼくは、土でよごれていたって、やさいはやさいだと思いました。友だちを、すんでいるところがちがうからといって、なかまはずれにするのはだめです。きれいとかきたないとか、かんけいなく、あそぶのがだいじだと思いました。それに、人が多い方が、あそびはたのしいです。

ぼくは、これから、じぶんとちがう人とあつたら、友だちになりたいです。ぼくは、クラスみんなと友だちです。車イスの友だちもいますが、おしゃべりしたり、手をふったりしたらすぐになかよくなれませんでした。

これからは、がいこくの人や年れいがちがうとかかんけいなく、ともだちをどんどんふやしたいです。